公益社団法人

# 全国学校栄養士協議会報

令和5年1月 第81号

発 行

公益社団法人 全国学校栄養士協議会 電話 03 (6380) 4360

全学栄ホームページ https://www.zengakuei.or.jp/



謹んで新春のお喜びを申し上げます。

皆様には、長びくコロナ禍の不自由で閉塞感ある日々にあっても、本会の事業運営につきまして、多大なご協力を頂いておりますこと、深く御礼申し上げます。

昨年は、本協議会の生みの親であり、かけがえのない指導者でありました田中信名誉会長のご逝去という、悲しい出来事がありました。本年は、この悲しさを乗り越えて、名誉会長のご意思に報いるよう頑張って取り組んでいかなければなりません。どうぞ今まで以上の、ご支援を頂きますよう、お願い申し上げます。

田中 信 名誉会長が築いてくださった栄養教諭制度創設の意義について、もう一度、原点にかえり、「栄養教諭は何をなすべきか」をしっかり考え、今年こそ、気持ちも新たに取り組んでいきたいと思います。

「栄養教諭は何をする職種か」社会においても、理解されていない現状があります。私たち栄養教諭自身も、各々の職業観で職務をこなしているように思えます。

栄養教諭は、管理栄養士という国家資格と教員の資質をあわせもった、他に類のない職種であり、管理と指導を一体的に担う職員です。給食管理で大切なことは、「献立の教材化のために」そして「個別的な相談指導のために」の栄養管理です。日頃の業務を見直し、行うべきものは何か、そのために、効率化を図ることができるものは何か、効率化のためにはICTをどこでどのように活用するか、栄養教諭自身が助け合えることは何か、そして、その上で注力すべき仕事は何か、しっかり見極めることが必要です。

専門職として、栄養学の根拠に基づいた食に関する指導を自信をもって、子供たちに行うことができるよう、しっかり研鑽を積んでいきましょう。

本年も、本会では、到達目標を掲げた講習会を開講し、会員の資質向上を目指します。多くの皆様に参加していただきますようお願いします。

コロナを乗り越え、希望に満ちた一年になりますよう願って、年頭のご挨拶とさせていただきます。

会長長島 美保子





#### 〈目次〉

一个れはどうる中学校の良貞 2~	ั ปี
●各部の報告····································	- 6
●第63回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会 (大分県)の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
●第73回全国学校給食研究協議大会	7
●都道府県だより······	8



## やればできる中学校の食育

~中学生用食育教材『「食」の探究と社会への広がり』を活用して~

兵庫県丹波市立氷上中学校 前校長 足立

### 1 はじめに

「各教科の先生が日頃の授業の中で活用できるも のにしたい」「食に関する関わりを図に示したコンセ プトマップが要るのではないか」「高校生になっても、 その後の人生に活用できるものにしたい」など議論 が白熱する中、編集委員会は始まった。コロナ禍の 下、オンラインで協議と検討を続け、中学生用食育 教材は令和4年2月にようやく完成した。

以下に、丹波市内の中学校でこの夏、実践された 活用事例を紹介する。

## 2 本教材を活用した実践例

- (1) 教科における活用例「社会(地理的分野、 公民的分野)」
  - ・使用した教材 「教材12 食の背景に何がある の?|
  - ・単元名「地理的分野:世界各国の衣食住とその 変化、公民的分野:現代社会の文化と私たち」
  - ・ねらい 世界各地の人々の食事について考える。 現代社会における文化や日本の伝統文化につい て理解させ、文化が与えている影響について考え る。
  - ・展開最近食べた食事について発表した後、 伝統的な行事食について、どのようなものがある か、冊子P32のイラストを参考に自分の知ってい るものや調べたものについて発表した。続いて、 それらの行事食の意味について考え、各自予想 してからタブレットで調べた。次は世界の食文 化について、冊子P34に掲載されているAとBの 2つのイラストを見て、自分たちの食事風景と比

べてそれぞれ気づ いたこととその背景 を考えた。その際、 冊子P35の解説を読 んで学習を深めた。 さらに、丹波市に外 国の方が来られた



【企画書のシートに記入している】

として食事会の企画をワークシートに作成した。 その際、①外国の方に対する配慮事項は何なの か考えること、②丹波の食文化と兵庫や関西の 食文化を伝えることの2点を必ず取り入れること とした。また、3年生の公民的分野の「現代社会 の文化と私たち」という単元を学習する際、日本 の伝統文化や世界の中の日本文化について学習 することになっている。そこでも食事会の企画 を作成することにした。

## (2) 教科における活用例「家庭科(B 衣食住の 生活-日常食の調理)|

- ・使用した教材 「教材4 1日に何を食べればい いの?
- ・ねらい 中学生が1日に必要な食品をどのように 組み合わせて食べることができるのか考えさせ る。実際の食生活に活かせるよう、献立の計画 から調理までを行い実践できる力を付けさせる。
- ・展 開 最初の1時間は、「食品群別摂取量の

めやす」と献立の作 成方法について学習 した。次に、「中学 生に必要な食事を 計画しよう」をテー マに、1日に必要な 食品を組み合わせ て1日の3食(補食も



【イラストを参考に献立を考える】

含め)の食事ですべてが摂取できるような献立 を考えグループワークを行った。その際に、冊 子P9のイラスト①を拡大して印刷したものを全 員に配布した。切り抜いて、ワークシートに並べ ると献立がイメージしやすかった。同時に冊子

P10のイラスト②を 参照することで、バ ランスの良い献立 になることが理解 できた。各自で献 立を作成した後、 グループ内で話し



【各自の献立を班内で交流】

合った。そしてグループごとに代表となる献立を 発表した。工夫されている点や参考にしたい点 について意見交換した。今回の学習をもとに1日 分の食事の献立を作成し、実際に夏休み中に調 理し、レポートを作成した。2学期になってから レポート発表と意見交換を行うことにしている。

#### (3) 養護教諭による活用例「保健指導 |

- ・使用した教材「教材5 朝食の効果を知ろう!| 「教材4 1日に何を食べればいいの?」
- ・ねらい 朝食の効果を知り、自分の生活を振り 返らせるため養護教諭から指導する機会を持っ た。
- ・展開夏休み前に保健指導を行うにあたって、

「教材5 朝食の効果 を知ろう!」「教材4 1日に何を食べれば いいの?」を参考に 「保健だより7月号」 を作成した。本校 の朝食喫食率のグ ラフとともに、冊子 P11~P12に掲載の 朝食の効果5つをま とめて載せた。裏 面には、冊子P9のイ ラスト①と冊子P10 [朝食について特集した「保健だより」] のイラスト②を載せ



てバランスの良い朝ごはんを食べるための情報 を載せた。そして、学年集会の場で保健だより をもとに養護教諭が直接説明をした。

## (4) 生徒会活動における活用例「保健委員会 の活動し

- ・使用した教材 「教材5 朝食の効果を知ろ う!」「教材6 誰にとっても重要!水分補給」
- ・ねらい 9月に開催される体育大会の練習に元気 に取り組めるようにする。熱中症対策と朝食の 喫食を中心にした取組を行った。
- ・展 開 7月の専門 委員会で、保健委員 を朝食グループと 水分グループとに分 かれた。続く専門 委員会は学習会で、 2つのグループごと



【冊子を読んで資料を作成】

に「教材5朝食の効果を知ろう! |と「教材6誰に とっても重要!水分補給」を読んで学習した。

8月には、水分グループは冊子P14を見て実際に スポーツドリンクを作った一方、朝食グループは 「朝食チェック」を集計し、まとめを行った。2学 期最初の専門委員会では、各グループから取組 の発表を行った。さらに全校集会では全校生徒 に取組の発表を行い、体育大会に向けて熱中症 予防と体力の向上に資するものとなった。

## (5) 部活動における活用例「陸上競技部での 食育|

- ・使用した教材 「教材4 1日に何を食べればい いの? |「教材8 ライフスタイルに合わせた食 事のとり方」「教材9 スポーツ栄養」
- ・ねらい 本校陸上部の生徒は、食が細く貧血気 味で食べる量が少なく偏食もある。そこで、食 生活を見つめ直し、改善することを目指した。
- ・展 開 雨天のミーティングの時間に冊子を使 い授業形式で実施した。最初に、部員一人ひと りにどんなものをどれくらい食べているか、日頃 の食事を振り返って話し合った。次に、「教材 4 1日に何を食べればいいの? | からP10を読んで 献立について、栄養素について学習した。そして、 「教材8 ライフスタイルに合わせた食事のとり方」 からP20のBさんの例を参考にP22の自分の生 活と食事を考え改善点を探した。最後に「教材 9 スポーツ栄養 | からP24のどのように食べてい

けばよいのか、今後 自分たちができるこ とを話し合った。普 段意識することの少 ない食事について考 える 良いきっかけに なった。



【自分たちにできることをペアト

### 3 おわりに

今回紹介したのは、ほんの一例でありまだまだ活 用の可能性はある。様々なところで工夫して積極的 に活用されることを期待したい。

最後に、今回の活用実践に取り組んでいただいた 丹波市立山南中学校、和田中学校、青垣中学校に感 謝申し上げます。

#### 総務運営部

総務・運営部は、会の運営に関する事項全般を所管しています。

## 新しい食育 中学校「教科等における食に関する指導」

令和4年度は昨年度の小学校Ⅱに引き続き、「食に関する指導の手引第二次改訂版」を踏まえ、中学校で身につけたい資質・能力を育成するために「食育の6つの視点」に沿った「教科等における食に関する指導」の指導展開例を作成しました。

教科と食に関する指導が連携しつつ、双方の目標を達成し 教育効果を高めることができると思われる単元を選び、カリキュラムプランを作成し、授業の実践事例をまとめました。

積極的に教科担任と連携し、食に関する指導が進められる ことを願っております。



#### 研究部

研究部は、給食管理や食に関する指導の実態を把握し、今後の指導に生かすために必要な資料を作成するとともに、栄養教諭等の資質向上のための研究を行っています。

## 1 「地場産物活用や食文化継承のための体験学習 | をテーマとした実践研究事例集

令和元年度の食育推進アンケートから、地場産物の活用、食文化の継承に積極的に取り組む必要があり、また、実際に体験することが効果的であることが考えられました。この結果を受け、令和3年度、全国から「地場産物活用や食文化継承のための体験学習」をテーマとした実践研究事例を集めました。

今年度、この中から11都道府県の取組について掲載した事例集を作成しました。具体的な参考事例とて、活用していただけますことを願っております。

## 研究授業方式による衛生管理研究会の実施記録

令和3年度に各都道府県で取り組んだ研究授業方式による 衛生管理研究会の事例の中から、参考になる取組を紹介しま した。また、地場産物を学校給食に取り入れるために様々な 取組を行っている施設の参考例も紹介しています。

安全安心な学校給食の提供のため、各施設の衛生管理等に ご活用ください。





涉外部

渉外部は、機関誌の発行と学校給食用食品の開発、食育活動集の作成を行っています。

## 1 機関誌「公益社団法人 全国学校栄養士協議会報」の発行

本協議会の活動報告、各種大会の案内や報告、都道府県だよりのほか、今年度は8月発行の80号に「栄養教諭配置効果に関する調査研究報告書について」文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課よりいただいた詳細説明を掲載しました。

### 2 学校給食用食品の研究開発

#### (1) 災害時における非常食の開発

ライフラインが途絶えた中で救援物資が届くまでの「いのちをつなぐ」非常食として、「救給シリーズ」が開発されました。自然災害だけでなく、不測の事態や備蓄、防災教育等にも活用されています。現在「野菜の煮物」の開発を進めており、近日中に会員の皆さまへ報告できるよう準備中です。

#### (2) 全学栄製品及び全学栄すいせん製品の選定と献立研究

既存の全学栄製品などの紹介や改善検討、開発を行い、学校 給食献立充実のための調理講習会や親子料理教室をとりまとめて います。

## 3 学校給食週間行事の推進

全国で実践されている食育活動を収集し、事例集を作成します。 令和3年度分第7編は、1月に発行予定です。





研修部

研修部は、会員のための各種講習会の運営を行っています。

## 1 各種講習会

夏季講習会と食育推進講習会一般コースは、インターネットによるWEB配信で実施しました。データ解析・論文コースについては、3年ぶりの対面方式による講習会を実施することができました。次項に参加された方の感想文を掲載しております。

•第57回学校給食夏季講習会「初めて学ぶ、学びなおす」

7月16日(土)~17日(日) 参加者79名

•食育推進講習会 一般コース「研究的思考を身につける」

11月12日(土)~13日(日) 参加者199名

•食育推進講習会 データ解析・論文コース「データを活用し発信する」

10月28日(金)~30日(日)参加者31名



## 2 食育に関する調査研究等に対する助成事業

食育に関する研究を行うグループに10万円の助成を行っています。今年度は東京都、広島県、山口県から応募があり、助成対象としました。助成を受けた研究成果は、この会報の紙面での発表を予定しています。

### 3 データ解析・論文コースに参加して

福井県 小浜市立小浜美郷小学校 栄養教諭 黒羽根 七海

今回の食育推進講習会はデータ解析・論文コースということで、難しい統計解析の手法を学ぶのだろうと、少 しの不安と共に参加しました。

実際、講習会では統計解析ソフトHADの使い方や、統計の考え方について丁寧にご指導いただきましたが、それ以前の「なぜ論文を書くのか、統計解析をどう用いるのか」というお話が印象に残りました。データは数字という形に落とし込まれていますが、元をたどればそれは現実の事象であり、なぜそのデータを検討するのか、どのようなことが言えるのか、どう働きかけていくべきなのかを判断するのは、あくまで栄養教諭という専門職の我々なのだということに気づき、とても勇気づけられました。

また、オンラインでなく参集型の研修であったことも、自分にとっては大きな経験の一つとなりました。一人きりではなく、各都道府県の経験豊富な先生方と話し合いながら、データを読み取り、解析を進めることで、今の自分にはない知見や考え方に触れることができました。最終日の発表はグループごとに行われましたが、他のグループの着眼点が思いもよらないものであったり、同じようなテーマでも結果のとらえ方・着目する部分・検討する項目に違いがあったりと、解析の難しさと面白さを同時に感じるものでした。そして、その後の講評で先生からお話をいただき、ソフトを使うことで感覚的に解析を行えるからこそ、データの解釈や推察、どの部分をどう切り取るのかについては、殊更に慎重にならなければならないと改めて認識しました。

私は、論文という手法や統計解析というツールは、栄養教諭の有用性や専門性を外部に示して児童によりよい食育を届けるために使用していくべきだと思います。そのことを念頭に、今後は実践と研究的な視点とを両立させて日々の業務に臨み、経験を積み重ねていきたいと考えます。

最後に、この講習会を受講することができて、本当に良かったです。ありがとうございました。





## 第63回 全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会(大分県)の報告 大分県代表者 阿南早都己

第63回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会が、『栄養教諭を中核とした学校における食育の推進~大分から全国へうまい・楽しい・元気な食育』をテーマに、令和4年8月4日(木)・5日(金)の2日間にわたり、大分県大分市にて開催されました。3年目となるコロナ禍において残念ながらオンライン開催となりましたが、全大会および分科会関係者の方々にはご来県いただき、全国から1450名もの皆様にご参加いただきました。

1日目の全体会では、文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課長の南野圭史様より、「学校における食育の推進と栄養教諭の役割」についての説明と、神奈川県立保健福祉大学の鈴木志保子栄養学科長からは、「栄養教諭の更なる活躍を目指した役割」と題してご講演をいただきました。続くシンポジウムでは、「学校・家庭・地域に求められる栄養教諭」をテーマに、様々な立場のシンポジストによる討議が行われました。

2日目は、8つの分科会で各3題の研究発表を行いました。Zoomのチャット機能を用いた研究討議では、ご参加のみなさまからたくさんの質問等が寄せられ、実り

ある分科会となりました。

この大会を通して貴重な体験をさせていただくとと もに、多くを学ぶことができました。これらを今後に生 かし、「子どもたちにとって必要とされる栄養教諭・学 校栄養職員」となれるよう、学校給食の充実と食育の 推進に努めて参りたいと思います。



## 第73回 全国学校給食研究協議大会

2022年10月13日(木)・14日(金)に、東京都渋谷区にある国立オリンピック記念青少年総合センターを主会場とし、「次代を担う子どもたちの心身の健康を育むために ~子どもの具える可能性を高める学校給食の役割~」をテーマに、オンラインで開催しました。2日間で全国の学校給食・食育関係者約900人を超える方々にご参加いただいたところです。

#### 【全体会】

全体会では、令和4年度学校給食表彰として、優秀な成果を上げた学校及び共同調理場や特に功績のあった学校給食関係者に対する文部科学大臣表彰を行いました。

また、文部科学省より、学校における食育の推進及び学校給食の充実について行政説明を行いました。

全体会最後のシンポジウムでは、学校における食育



(令和4年度学校給食表彰式)

## 文部科学省健康教育·食育課

の推進のための学校給食の役割として、学校給食の時間における指導の在り方について、栄養教諭や教諭、管理職というそれぞれの役職や、単独調理場、共同調理場、義務教育学校というそれぞれの立場から活発に討議がなされました。

#### 【分科会】

学校給食を活用し教職員が連携した小・中学校における食育や、社会的課題に対応した学校給食の充実等の8つのテーマに基づき、実践発表や研究協議、それに対する指導助言や講義が行われました。どの分科会もテーマに沿った素晴らしい発表や活発な意見交換が行われ、今後の学校給食のさらなる充実につながるものとなりました。



(分科会)

最後に、本大会の開催にあたり、各関係機関の方々より多大なる御協力をいただきましたこと、心より感謝申 し上げます。



## 毎年10月24日は「学校給食ぐんまの日」

群馬県は、豊かな水源と全国トップクラスの日照時間に支えられ、年間を通して新鮮でおいしい、多彩な食材が生産されています。このような群馬の食材を積極的に活用した学校給食を提供することにより、子どもたちが地域の豊かな自然や生産・流通等に携わる人々への理解を深められるよう、群馬県では平成13年に「学校給食ぐんまの日」を制定しました。

学校給食記念日が12月24日であること、群馬県民の日が10月28日であることなどから、10月24日を学校給食ぐんまの日としました。収穫の秋に毎年行う、群馬の給食イベントです。

各給食施設では10月24日を中心に、地元のJA

や生産者と協力し、地場産の食材を多く使用した学校給食を提供します。また、群馬県学校給食会からは県産食材使用の加工食品(県産小麦ゆめかおり使用の「ゆめロール」や県産のコンニャク等使用の「上州かみなりごはん」等)への補助金の協力もあり、県産食材使用率アップに貢献しています。

栄養教諭等が行う給食時間の指導や食育 TT 授業では、群馬県産の食べ物をアピールするための掲示物や食育動画等の食育教材を作成・活用して効果的な指導を心掛けています。おいしい給食と指導の工夫で、これからも地元愛あふれる子どもたちを育成していきたいと思います。

群馬県代表者 関口 順子

## 子どもたちの健やかな成長のために 滋賀県の取組

全国学校栄養士滋賀県研究協議会は、滋賀県栄養 教諭・学校栄養職員研究会と連携し様々な活動をし ています。

毎年研究テーマを定め全体研修を行うと共に県内を7つのブロックに分けて自主研修や衛生管理研修を実施しています。今年度の研究テーマは「安全安心かつ美味しい学校給食の提供~コロナ禍における給食提供・給食指導の工夫~」です。

全体研修では「オンラインでも使える授業動画作成」の内容で、滋賀県総合教育センターから講師の 先生を迎えハイブリット形式の研修会を計画しました。動画編集や効果的な教材の作成について、演習 を交えて講義いただくことで今後の教材作成等に活 かす学びになればと考えています。

各ブロックの自主研修では、今年度の研究テーマのもと生きた教材となる献立研究や、給食指導の教材研究、地場産物や家庭科の指導でも利用可能なICTの活用などの研究を行います。また、衛生管理研修では、ATP 拭き取り検査も活用し目に見える形で衛生管理ができるよう研究を行います。

ウィズコロナの今、今だからこそできる取組を会 員の心を一つに進めたいと思います。

滋賀県代表者 青栁 百合子

## 「みんなで頑張っています」

新型コロナ感染症の影響で給食の時間が「黙食」となってから数年が経ちました。私たちにとっては大切な食に関する指導の場であったのですが、以前のような指導もままならず大変な思いをしています。しかし、ここで落ち込むことはなく、それぞれが工夫をして、子どもたちに食の大切さや食べる楽しさを伝えています。

一つ目は、給食献立の活用です。愛媛県は海あり山あり、食材も豊富で郷土料理も多くあります。しかし、地域が変われば詳しくは分かりません。そこで、それに対応すべく各地の郷土料理や特産品を活用した「愛媛の学校給食献立集」を作成しました。これらを給食で提供することによって愛媛の豊かな

食を子どもたちに味わってもらっています。

二つ目はICTの活用です。まずは教材をパワーポイント等を使用して作成します。箸の使い方、献立の食材の説明など、各支部で協力しながら、短時間で放送できるものをいくつか作成し給食時間に放送しています。この資料は全校一斉でも各クラス単独でも、状況に合わせて使用できるので助かっています。また、支部の会員が共通の指導ができる点もいいところだと思っています。

まだまだ、このような状況が続くかもしれませんが、できることを工夫しながら、積極的に食に関する指導を続けていきたいと思います。

愛媛県代表者 田渕 桂子